



# 覚醒剤の押収量、過去最高！

覚醒剤の摘発件数は88件、押収量は約493kg

～平成30年の東京税関における不正薬物等密輸入事犯の取締り状況～

東京税関において平成30年中に摘発した不正薬物<sup>(※1)</sup>は、合計で246件/約670kg<sup>(※2)</sup>となった。内訳は、覚醒剤88件/約493kg、大麻66件/約133kg、麻薬42件/約39kg、向精神薬3件/約7kg、指定薬物47件/約5kgであった。

### [主な特徴]

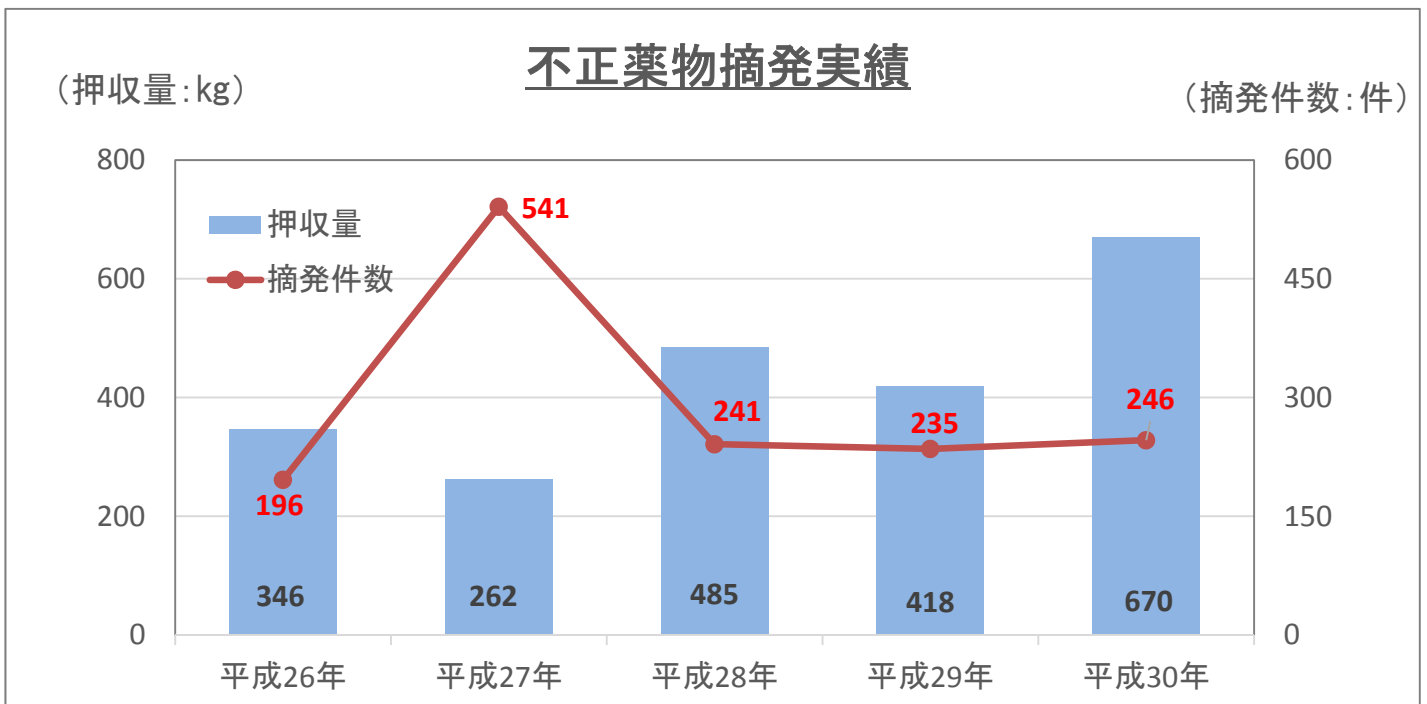
- ◆ 覚醒剤を大量に摘発（海上貨物から約313kg、次いで航空機旅客から約121kgを摘発）
- ◆ 航空機旅客では1回の押収量で過去最高となる覚醒剤（約30kg）、大麻（約92kg）をそれぞれ摘発
- ◆ 大麻の押収量は2年連続で100kg超  
大麻成分を含有するリキッドやワックス、菓子なども摘発
- ◆ コカインの摘発件数は前年の3倍となり過去最高を記録

(※1) 覚醒剤、大麻、あへん、麻薬（ヘロイン、コカイン、MDMA等）、向精神薬及び指定薬物をいう。

資料：「社会悪物品の摘発実績」参照

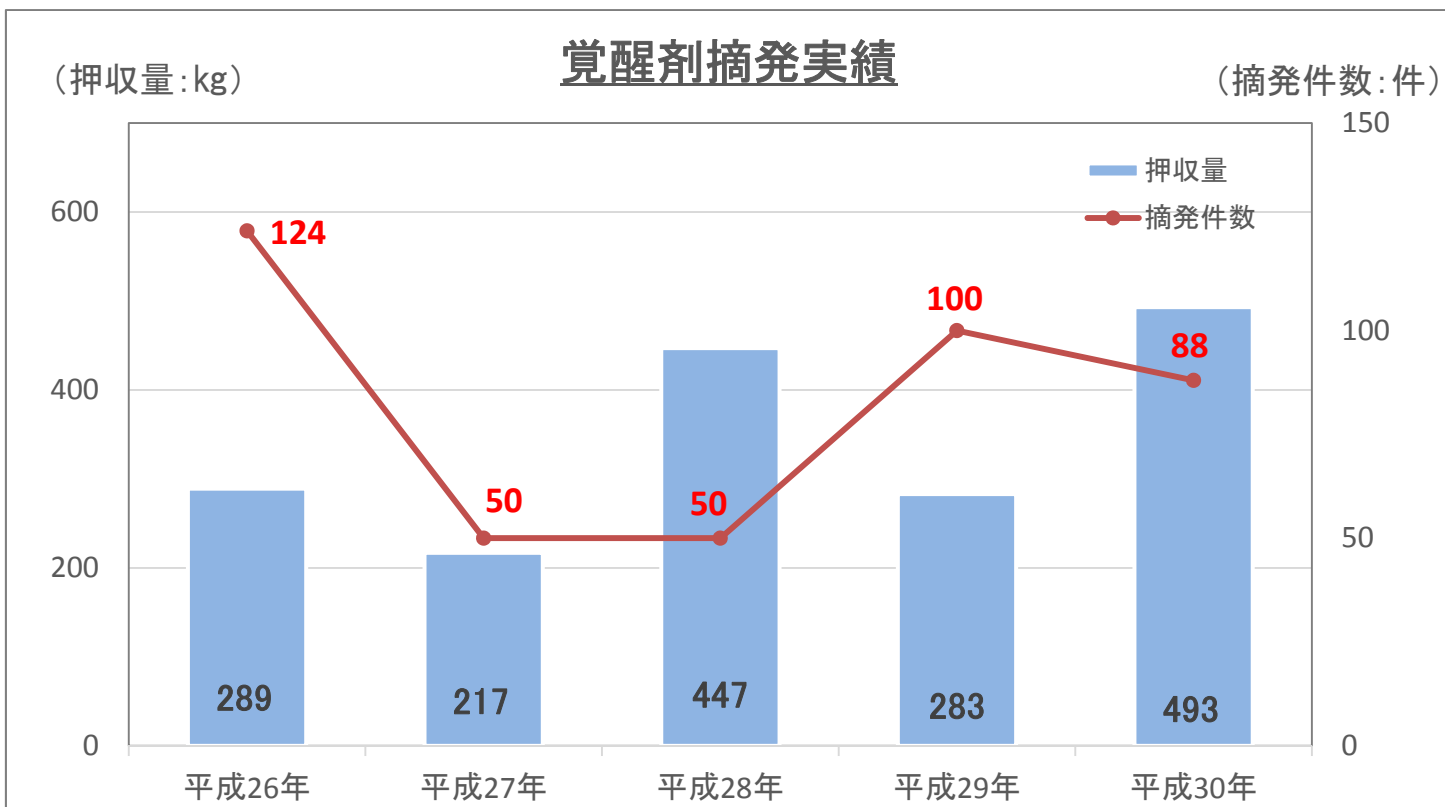
(※2) 錠剤型薬物を除いたものである。

(注) 平成30年の数値は速報値である。



# 1 覚醒剤密輸入事犯の概況

- 押収量は、約493kgと過去最高を記録した。
- 不正薬物全体押収量の約7割を占め、不正薬物密輸入事犯の中心となっている。



## (1) 密輸入形態

- 商業貨物における押収量が大幅に増加した。  
海上貨物において、4件、約313kgを摘発・押収した。
- 航空機旅客における摘発件数及び押収量は、前年に続き、高水準にある。
- 国際郵便からの摘発件数及び押収量は、ともに、過去5年を比較しても高水準にある。

### 形態別覚醒剤摘発実績

(左：摘発件数／右：押収量)

	平成26年		平成27年		平成28年		平成29年		平成30年	
航空機旅客	99件	208kg	24件	65kg	31件	63kg	81件	169kg	64件	121kg
商業貨物	10件	67kg	15件	149kg	15件	367kg	6件	35kg	13件	334kg
海上貨物	-	0kg	4件	77kg	2件	300kg	-	-	4件	313kg
航空貨物	10件	67kg	11件	72kg	13件	66kg	6件	35kg	9件	21kg
国際郵便	14件	14kg	11件	2kg	4件	17kg	13件	78kg	11件	38kg
船舶乗組員	1件	0kg	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	124件	289kg	50件	217kg	50件	447kg	100件	283kg	88件	493kg

(注) 1.数量の表記について、「0」とは500gまたは500錠未満の場合を示し、「-」とは全く無い場合を示す。  
2.押収量については、端数処理のため、合計が一致しないことがある。

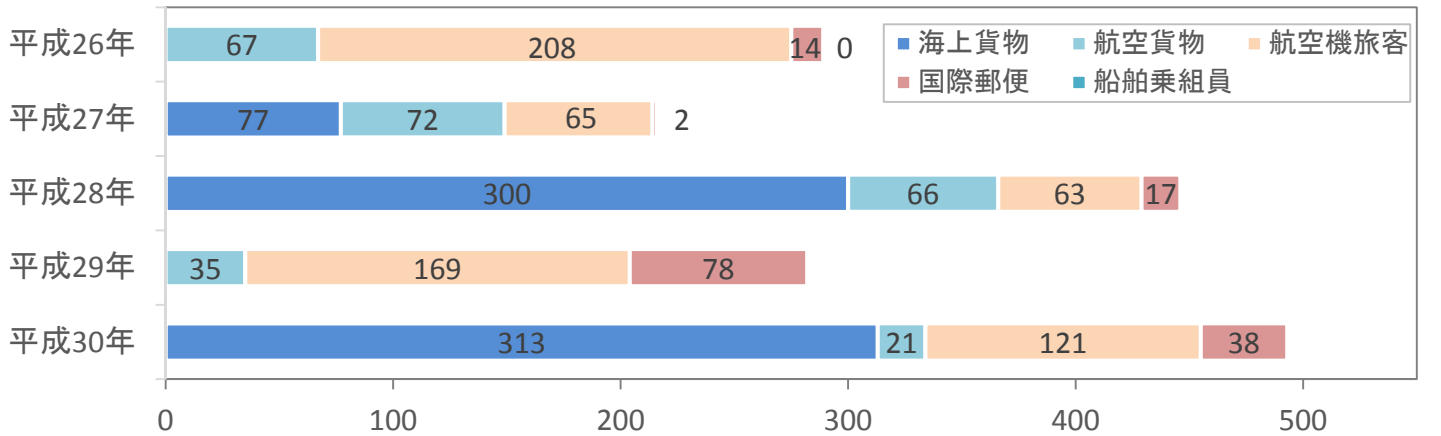
# 商業貨物からの覚醒剤押収量は約334kg

～ 国際郵便物からは合計約38kgを押収 ～

- 【海上貨物】 香港来海上貨物から、大量の覚醒剤約250kgを摘発した。
- 【航空貨物】 米国来航空小口急送貨物から、覚醒剤約7kgを摘発した。
- 【国際郵便】 中国来国際郵便物から、覚醒剤約28kgを摘発した。

※平成30年形態別最大押収量事犯

覚醒剤の密輸入形態別押収実績



(注)平成26年の「0」については、船舶乗組員による摘発で、500g未満。

## 【海上貨物】

レーザーカッティングマシンに覚醒剤（約250kg）を隠匿  
（平成30年1月 東京税関本関摘発）



## 【航空貨物】

事務用いすの背もたれ内に覚醒剤（約7kg）を隠匿  
（平成30年8月 成田航空貨物出張所摘発）



## 【国際郵便】

蝋燭様のものに覚醒剤（約28kg）を練り込み隠匿  
（平成30年5月 東京外郵出張所摘発）



## (2) 仕出地

- アジア仕出しの押収量が全体の約8割を占めた。
- アジア仕出しの押収量のうち、約8割は中国（香港、マカオ含む）、摘発件数ではマレーシアとタイで約5割を占めた。

### 仕出地別覚醒剤摘発実績

(上段：摘発件数・下段：押収量／構成比)

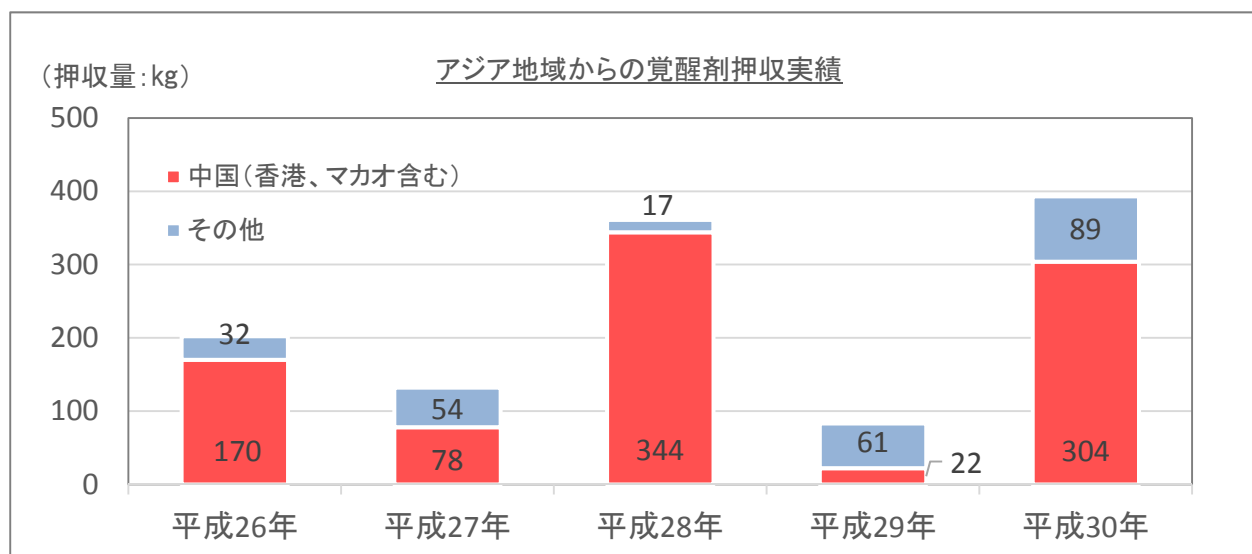
	平成26年		平成27年		平成28年		平成29年		平成30年	
ア ジ ア	90件	73%	33件	66%	31件	62%	54件	54%	49件	56%
	201kg	70%	132kg	61%	361kg	81%	83kg	29%	392kg	80%
北 米	3件	2%	6件	12%	8件	16%	6件	6%	11件	13%
	0kg	0%	3kg	1%	16kg	4%	93kg	33%	33kg	7%
中 南 米	7件	6%	5件	10%	2件	4%	5件	5%	9件	10%
	39kg	13%	54kg	25%	27kg	6%	10kg	3%	9kg	2%
アフリカ	7件	6%	2件	4%	5件	10%	15件	15%	5件	6%
	9kg	3%	20kg	9%	38kg	8%	70kg	25%	38kg	8%
欧 州	15件	12%	2件	4%	3件	6%	10件	10%	7件	8%
	37kg	13%	4kg	2%	6kg	1%	16kg	6%	16kg	3%
中 東	2件	2%	2件	4%	-	-	7件	7%	4件	5%
	4kg	1%	3kg	2%	-	-	12kg	4%	2kg	1%
不 明	-	-	-	-	1件	2%	3件	3%	3件	3%
	-	-	-	-	0kg	0%	0kg	0%	3kg	1%
合 計	124件	100%	50件	100%	50件	100%	100件	100%	88件	100%
	289kg	100%	217kg	100%	447kg	100%	283kg	100%	493kg	100%

注) 1.数量の表記について、「0」とは500gまたは500錠未満の場合を示し、「-」とは全く無い場合を示す。

2.押収量については、端数処理のため、合計が一致しないことがある。

## アジア地域からの覚醒剤押収量が急増！

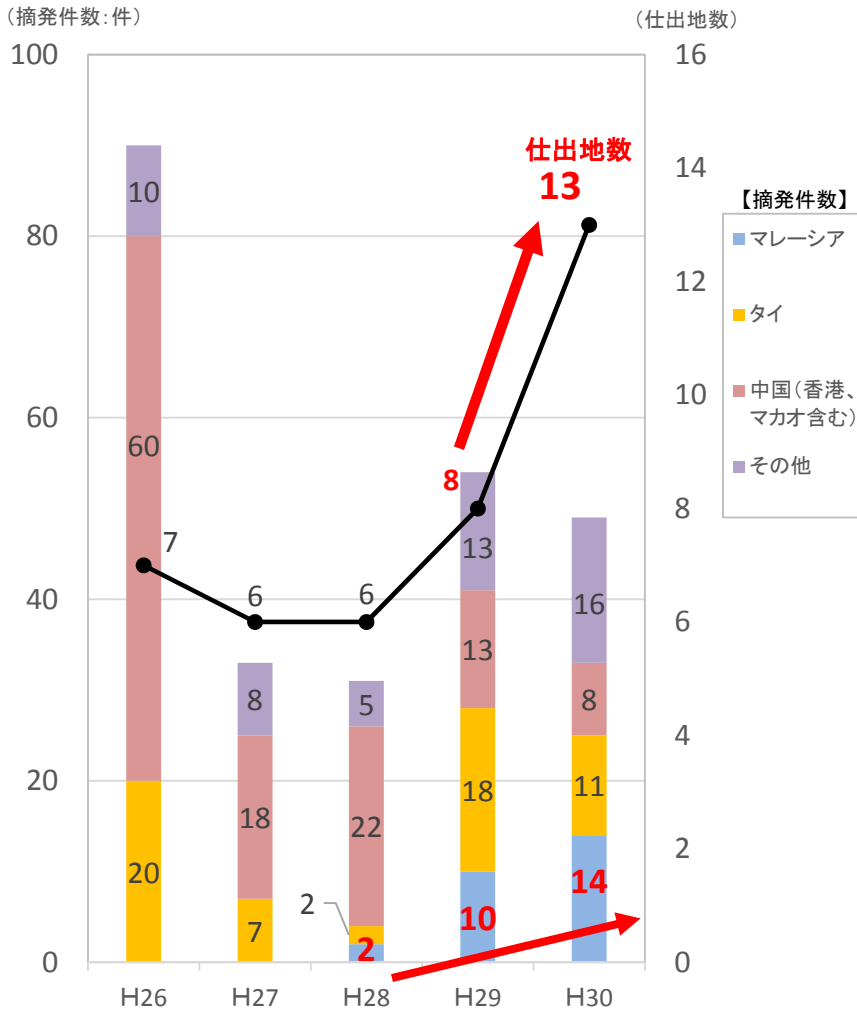
- 前年の約5倍となる約392kgを押収した。
- 平成28年に100kgを超える摘発が2件あったが、平成30年は、1件で200kgを超える摘発があった。



# マレーシア来覚醒剤摘発の増加

- アジア地域を仕出地とする覚醒剤の摘発は、前年の8か国から13か国に増加し広範化した。中でも、マレーシアが最も多く過去最多となる14件の摘発があった。
- マレーシア来覚醒剤の密輸入形態は、航空機旅客によるものが主流であったが、海上貨物、航空貨物による摘発もあり、多様化している。

アジア地域来覚醒剤摘発実績



【航空貨物】

ドアハンドル内に覚醒剤（約2kg）を隠匿  
（平成30年6月 東京税関本関摘発）



【海上貨物】

大型機械（射出モールド）内に覚醒剤（約37kg）を隠匿

（平成30年1月 東京税関本関摘発）

マレーシア来では過去最大量  
（海上貨物では初摘発）





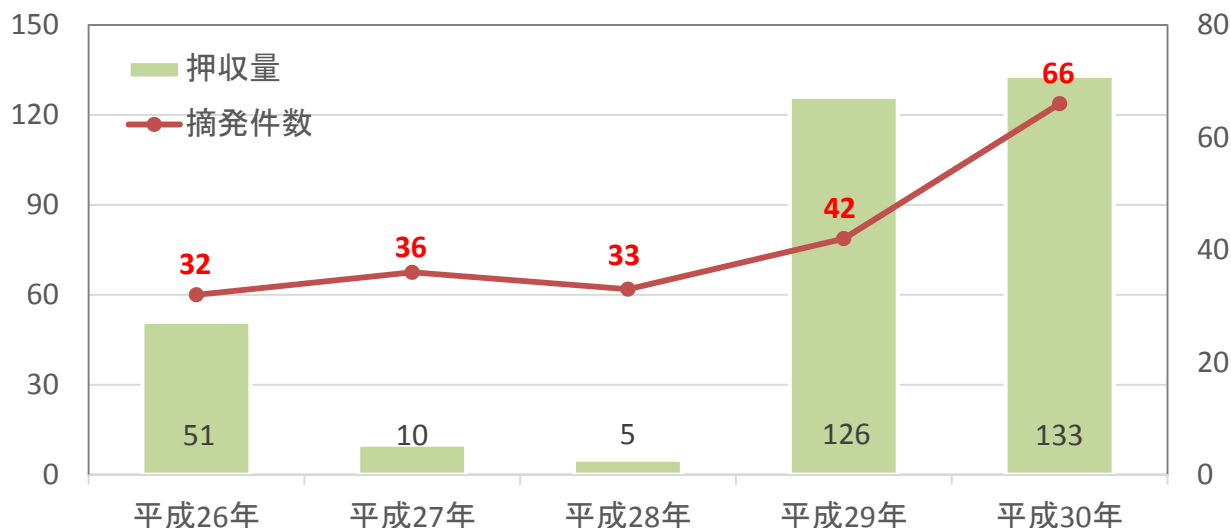
## 2 大麻密輸入事犯の概況

- 押収量は約133kgとなり、前年に続き2年連続で100kgを超えた。
- 摘発件数・押収量ともに過去5年間で最大となった

### 大麻摘発実績

(押収量:kg)

(摘発件数:件)



#### (1) 密輸入形態

- 航空機旅客の摘発は、1回で約92kgの大量摘発があり、押収量が大幅に増加した。
- 商業貨物の摘発は、前年と比較し押収量は減少したが、摘発件数は大幅に増加した。
- 国際郵便の摘発は、ショットガン方式による密輸入の摘発があり、摘発件数・押収量ともに増加した。
- 商業貨物及び国際郵便における摘発件数の増加要因として、リキッド、ワックス、菓子などの大麻製品の摘発が多かったことによる。

#### 形態別大麻摘発実績

(左: 摘発件数/右: 押収量)

	平成26年		平成27年		平成28年		平成29年		平成30年	
航空機旅客	16件	28kg	20件	1kg	21件	0kg	23件	2kg	17件	92kg
商業貨物	9件	22kg	5件	2kg	6件	4kg	10件	118kg	17件	10kg
海上貨物	2件	0kg	-	-	-	-	1件	100kg	-	-
航空貨物	7件	22kg	5件	2kg	6件	4kg	9件	18kg	17件	10kg
国際郵便	7件	1kg	11件	8kg	6件	1kg	9件	6kg	32件	31kg
船舶乗組員	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	32件	51kg	36件	10kg	33件	5kg	42件	126kg	66件	133kg

(注) 1.数量の表記について、「0」とは500gまたは500錠未満の場合を示し、「-」とは全く無い場合を示す。

2.押収量については、端数処理のため、合計が一致しないことがある。

## (2) 仕出地

- 米国、カナダといった北米地域を仕出地とする摘発件数は前年の約2.6倍、押収量は約9.2倍と大幅に増加した。また、同地域を仕出地とする大麻の摘発件数は全体の約8割、押収量は約98%を占めた。
- カナダ来の航空機旅客から過去最高となる大麻草約92kgを摘発した。（9頁参照）
- 米国来の国際スピード郵便物からショットガン方式で送られてきた大麻草19件、約28kgを摘発した。

### 仕出地域別大麻摘発実績

(上段：摘発件数・下段：押収量／構成比)

	平成26年		平成27年		平成28年		平成29年		平成30年	
	ア ジ ア	9件	28%	7件	19%	9件	27%	10件	24%	2件
	22kg	44%	4kg	42%	3kg	63%	11kg	9%	1kg	1%
北 米	17件	53%	17件	47%	17件	52%	21件	50%	54件	82%
	29kg	56%	6kg	58%	2kg	33%	14kg	11%	130kg	98%
中 南 米	-	-	2件	6%	1件	3%	-	-	1件	2%
	-	-	0kg	0%	0kg	0%	-	-	1kg	0%
アフリカ	1件	3%	-	-	-	-	1件	2%	-	-
	0kg	0%	-	-	-	-	100kg	79%	-	-
欧 州	4件	13%	9件	25%	4件	12%	4件	10%	7件	11%
	0kg	0%	0kg	0%	0kg	3%	1kg	1%	1kg	1%
中 東	-	-	-	-	-	-	-	-	2件	3%
	-	-	-	-	-	-	-	-	0kg	0%
不 明	1件	3%	1件	3%	2件	6%	6件	14%	-	-
	0kg	0%	0kg	0%	0kg	0%	0kg	0%	-	-
合 計	32件	100%	36件	100%	33件	100%	42件	100%	66件	100%
	51kg	100%	10kg	100%	5kg	100%	126kg	100%	133kg	100%

注) 1.数量の表記について、「0」とは500g未満の場合を示し、「-」とは全く無い場合を示す。

2.押収量については、端数処理のため、合計が一致しないことがある。

#### 【国際スピード郵便物】

衣類の内側に大麻草（約28kg）を隠匿

（平成30年3月～4月 東京外郵出張所摘発）

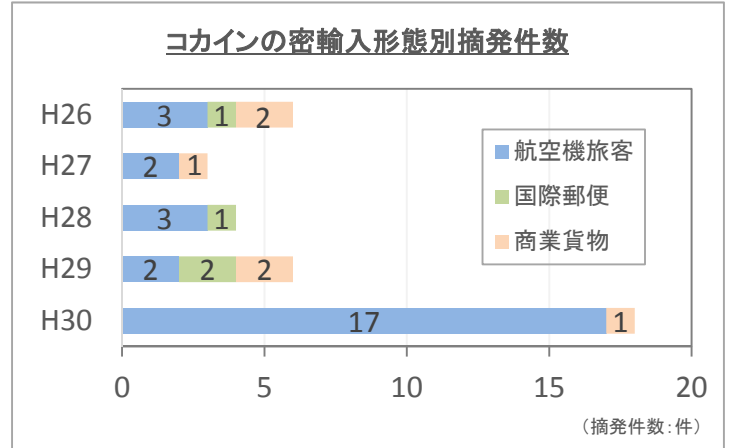
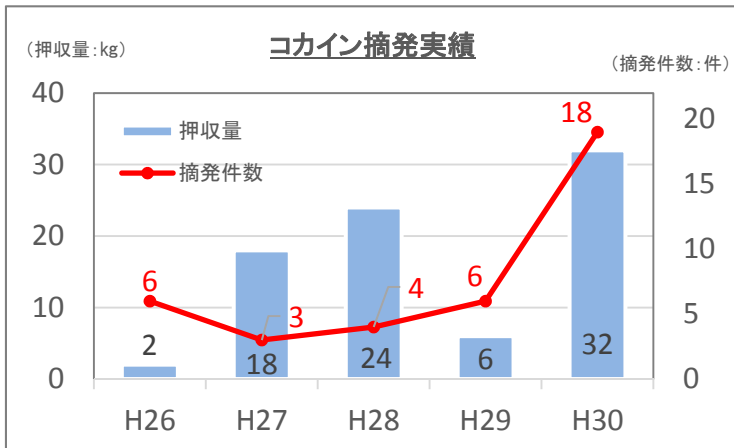


※ 19件の郵便物がショットガン方式で送られてきたもの

### 3 その他の不正薬物密輸入事犯の概況

## コカインの摘発件数は過去最高

- コカインの摘発件数は、前年の約3倍となり、過去最高で押収量も増加した。
- 密輸入形態別では、航空機旅客による摘発が最も多く、携行のスーツケースに隠匿工作し密輸した事案が多数あったほか、タオル生地等への染み込ませや、液状にし、缶詰内に隠匿する手口が見受けられた。



#### 【エチオピア来航空機旅客】

衣類内タオル生地等に染み込ませたコカイン（約2kg）を隠匿  
（平成30年5月 成田税関支署摘発）



#### 【ブラジル来航空機旅客】

缶詰にコカイン溶液（約4kg）を隠匿  
（平成30年11月 成田税関支署摘発）





## 携帯品による覚醒剤・大麻草の大量摘発

- ケニア来航空機旅客の携帯品から、覚醒剤約30kgを摘発した。これは覚醒剤の携帯密輸1回の押収量としては過去最高となる。
- カナダ来航空機旅客の携帯品から、大麻草約92kgを摘発した。これは大麻の携帯密輸1回の押収量としては過去最高となる。

### 【ケニア来航空機旅客】

コーヒー豆の袋内に覚醒剤（約30kg）を隠匿  
（平成30年4月 羽田税関支署摘発）



### 【カナダ来航空機旅客】

携行スーツケース内に大麻草（約92kg）を分散隠匿  
（平成30年8月 羽田税関支署摘発）



## 高い年齢層による密輸が目立った

- 50歳以上の高い年齢層の運び屋の摘発が多数見受けられた。
- 70代、80代が運び屋となるケースが増え、国籍別では欧州及び北米国籍の割合が多く、車椅子利用者もいた。

【ドイツ来航空機旅客（71歳）】  
ポストンバッグ底部にコカイン（約3kg）を隠匿  
（平成30年1月 羽田税関支署摘発）



【ブラジル来航空機旅客（80歳）】  
二重底に工作したスーツケースにコカイン（約2kg）を隠匿  
（平成30年4月 成田税関支署摘発）



【カナダ来航空機旅客（82歳）】  
プラスチックボトル内にコカイン（約1kg）を隠匿  
（平成30年11月 羽田税関支署摘発）



## 大麻製品の摘発が増加

- 従来大麻製品の摘発では大麻たばこが主流であったが、近年はリキッド、ワックスのほか、タブレットのような食品が増加傾向にある。
- 仕出国は米国が大宗を占め、密輸形態では商業貨物が最も多く次いで国際郵便となっている。

### 【様々な形状で密輸される大麻製品】

#### 【大麻リキッド】



#### 【大麻ワックス】



#### 【大麻タブレット】





## 社会悪物品の摘発実績

種類	年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	前年同期比
覚醒剤	件	124	50	50	100	88	88%
	kg	289	217	447	283	493	174%
大麻	件	32	36	33	42	66	157%
	kg	51	10	5	126	133	106%
大麻草	件	18	21	22	34	44	129%
	kg	29	8	4	114	132	116%
大麻樹脂	件	14	15	11	8	22	275%
	kg	23	3	1	12	1	10%
あへん	件	-	-	-	-	-	-
	kg	-	-	-	-	-	-
麻薬	件	32	72	27	25	42	168%
	kg	6	25	24	6	39	613%
	千錠	0	0	0	0	0	41.2倍
ヘロイン	件	2	2	-	1	1	100%
	kg	0	2	-	0	0	0%
コカイン	件	6	3	4	6	18	300%
	kg	2	18	24	6	32	524%
MDMA等	件	1	1	1	3	7	233%
	kg	0	0	0	0	4	3,791.2倍
	千錠	-	-	-	0	0	36.8倍
ケタミン	件	5	6	5	5	2	40%
	kg	1	4	0	0	1	480%
その他麻薬	件	18	60	17	10	14	140%
	kg	3	1	0	0	2	1801%
	千錠	0	0	0	-	0	全増
向精神薬	件	8	2	1	6	3	50%
	kg	-	0	-	0	-	全減
	千錠	3	-	0	2	7	455%
指定薬物	件	-	381	130	62	47	76%
	kg	-	10	8	2	5	220%
合計	件	196	541	241	235	246	105%
	kg	346	262	485	418	670	161%
	千錠	3	0	0	2	8	482%
(参考) 使用回数	万回	1,000	807	1,572	997	1,778	182%
銃砲	件	-	-	1	3	2	67%
	丁	-	-	1	3	2	67%
うち拳銃	件	-	-	1	3	2	67%
	丁	-	-	1	3	2	67%
拳銃部品	件	2	-	-	-	-	-
	点	2	-	-	-	-	-

(注 1. 税関が摘発した密輸入事犯の他、警察等他機関が摘発した事件で、税関が当該事件に関与したものを含む。

2. 覚醒剤は、覚醒剤及び覚せい剤原料の合計を示す。

3. 大麻樹脂は、大麻樹脂その他の大麻の製品の合計を示す。

4. MDMA等は、MDMA、MDA及びMDEの合計を示す。

5. (参考) 使用回数は、以下の不正薬物について、乱用者の通常の一回分使用量をもとに換算し、合計したものである。

(覚醒剤：0.03g、大麻草：0.5g、大麻樹脂：0.1g、あへん：0.3g、ヘロイン：0.01g、コカイン：0.03g、MDMA等及び向精神薬：1錠)

6. 端数処理のため数値が合わないことがある。

7. 数量の表記について、「0」とは500gまたは500錠未満の場合を示し、「-」とは全く無い場合を示す。

8. 指定薬物については、平成27年4月以降の実績を計上。

9. 平成30年の数値は速報値である。